

## 震災支援報告with医学生



3月24～27日で、医学生2名と東日本大震災の支援に行ってきました。2人の学生は地震直後に「支援に行きたい」と名乗り出てくれていた学生です。坂総合病院を拠点に避難所まわりや診療所支援を行いました。以下、感想を載せます。

### 〈府立医大・4月から京都民医連で初期研修医〉

私は坂総合病院で支援をさせていただきました。やったことは避難所まわりです。医療支援が目的でしたが、

それだけでは足りず、私たちはトイレ掃除をしました。感染予防として、塩素剤で拭き掃除をしました。水道がまだ復旧しておらず、用を足した後くみ置きの水でしか流せないことや、手が洗えないなどの問題がありました。トイレが汚いと感染のリスクが高まるだけでなく、トイレに行きたくないから水を飲まず、循環障害になったりするケースもあるとうかがいました。私たちが掃除する姿を遠くから手を合わせておられるおばあさんがおられ、胸が熱くなりました。現地に支援に行ったからと自己満足に陥らないように気をつけながら、今後も支援させていただく所存です。被災地が一刻も早く復興するよう願っています。

〈新入職員研修会では支援報告を行い、多くの新入職員に震災現場の生の声を伝え、印象的な民医連オリエンテーションにもなっています〉

### 〈府立医大・新4回生〉(京都民医連奨学生春合宿での報告より抜粋)

1日目は松島海岸診療所に支援に行って、診療所の掃除や泥を掃いたりしました。ここは断水が続いているのですが、たった1日支援に来ただけなのに貴重な水でコーヒーを作って下さり、申し訳ないなと思いました。

2日目は避難所でした。アナウンスで「医師が来ました」と放送されると、すぐに患者さんが集まってきて、僕はひたすら問診をとっていました。失敗したなと思ったのは、ある人は体温を測ってきたので、他の人にも同じように「熱はありますか」と聞くと、「体温計がないので分かりません」と言われました。着の身着のまま逃げてきているのに、避難所の生活がわかっていないなと反省しました。

まだ上手くまとめられないけれど、行ってすごくよかったと思うし、夏にも行きたいと思います。これからも支援は続くので、みんなでやっていけたらいいと思います。

「何かしたい」という学生の思いはすごく強く、帰ってからも、他の学生に状況を伝えてくれたり、「もっと出来たことがあるんじゃないか」と悩んでいたりと、多くのことを学んでくれたようです。学生の伝えたい思いはたくさんあり、それを文字にまとめているところです。報告を聞いて、自分に何が出来るのかを考えたり、「私も行って役に立ちたい」という学生も出てきています。

